

# 虹を追ふひと

The man following the rainbow



〈第1部〉シンポジウム

萩原朔太郎をいま、読み直す

松浦寿輝  
詩人・作家・フランス文学者

星野太  
美学者・金沢美術工芸大学講師

高橋睦郎  
詩人

〈第2部〉リーディングシアター

ただ港だけが故郷だふるさと (萩原朔太郎「天に怒る」より)

萩原朔美

手島実優

斉藤佑介

柳沢三千代

堀内正美

出演者

栗原飛宇馬 (文学研究者)

演出・脚本

「ああ、お前は夢を夢みる人だ、所詮、甲斐のないことを知りながら虹を追って行く人だ。」  
萩原朔太郎「虹を追ふひと」より

2018年5月12日(土) 14:00開演 (開場 13:30) 昌賢学園まえばしホール 小ホール  
(前橋市民文化会館) 群馬県前橋市南町三丁目62番1号

チケット / 500円〈販売中〉 プレイガイド 煥乎堂、昌賢学園まえばし文化ホール、前橋文学館

主催：朔太郎忌実行委員会 共催：萩原朔太郎研究会、前橋市、(公財)前橋市まちづくり公社、前橋文学館友の会  
後援：朝日新聞社前橋総局、NHK前橋放送局、FM GUNMA、共同通信社前橋支局、群馬テレビ、産経新聞社前橋支局、JCOM群馬、時事通信社前橋支局、上毛新聞社、高崎前橋経済新聞、東京新聞前橋支局、表象文化論学会、毎日新聞前橋支局、前橋観光コンベンション協会、まえばしCITYエフエム、前橋商工会議所、読売新聞前橋支局  
協賛：群馬詩人クラブ、群馬バンク  
〈お問合せ〉朔太郎忌実行委員会 (萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち前橋文学館内) 〒371-0022 群馬県前橋市千代田町3丁目12-10 TEL.027-235-8011 FAX.027-235-8512



〔第1部〕シンポジウム  
萩原朔太郎をいま、読み直す



たかはし むつお  
高橋睦郎

1937年福岡県生まれ。詩人。1959年第一詩集『ミノ・あたしの雄牛』刊行。1982年『王国の構造』で第20回藤村記念歴程賞、1988年『兔の庭』(1987年刊)で第18回高見順賞、1993年『旅の絵』(1992年刊)で第11回現代詩花椿賞、1996年『姉の島』(1995年刊)で第11回詩歌文学館賞、2010年『永遠まで』(2009年刊)で第28回現代詩人賞。ほかに、『和音羅読一詩人が読むラテン文学』(2013年)で第5回鮎川信夫賞詩論集部門受賞。句歌集『稽古飲食』(1987年)で第39回読売文学賞受賞、句集『十年』(2016年)で蛇笏賞・俳句四季大賞。2017年文化功労者顕彰、日本芸術院会員選出。近著に『在りし、存らまほしき三島由紀夫』(2016年)、『詩人が読む古典ギリシャと訓欧心』(2017年)。今夏、新詩集『つい昨日のこと・私のギリシア』刊行予定。詩のみならず、短歌、俳句、小説、能、狂言、浄瑠璃、オペラ台本ほか多方面で芸術活動を行っている。



ほし の ふとし  
星野 太

1983年生まれ。金沢美術工芸大学講師。専攻は美学、表象文化論。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。著書に『崇高の修辞学』(月曜社、2017年)、共編著に『The Sublime and the Uncanny』(UTCP、2016年)、共著に『コンテンポラリー・アート・セオリー』(イオスアートブックス、2013年)、訳書にカンタン・メイヤー『有限性の後で』(千葉雅也・大橋完太郎との共訳、人文書院、2016年)などがある。



まつうら ひさき  
松浦寿輝

1954年東京都生まれ。詩人、作家。東京大学名誉教授(フランス文学・表象文化論)。萩原朔太郎賞選考委員。1982年第一詩集『ウサギのダンス』を刊行。1988年詩集『冬の本』で第18回高見順賞、2009年『吃水都市』で第17回萩原朔太郎賞、2014年『afterward』で第5回鮎川信夫賞。小説では、1996年に第一小説集『ものたはむれ』を刊行。2000年『花腐し』で第123回芥川龍之介賞、2005年『半島』で第56回読売文学賞、『あやめ 蝶 ひかがみ』で第9回木山捷平賞、2017年『名誉と恍惚』で第53回谷崎潤一郎賞、第27回ドゥマゴ文学賞。評論では、1995年『エッフェル塔試論』で第5回吉田秀和賞。1996年『折口信夫論』で第9回三島由紀夫賞、2000年『知の庭園——一九世紀バリの空間装置』で第50回芸術選奨文部大臣賞、2015年『明治の表象空間』で第56回毎日芸術賞特別賞。2016年12月より萩原朔太郎研究会会長。

映画監督堀内甲の長男として東京都世田谷区に生まれる。学生時代に千田是也、清水邦夫、蛭川幸雄に師事、劇作・演出を学ぶが、在学中にTBSのプロデューサーにスカウトされ、1973年、夏目漱石の『門』と『それから』を早坂暁が脚色した金曜ドラマ『わが愛』で俳優デビュー。その後、実相寺昭雄監督と出会い、個性的な役柄を次々と演じるようになる。若い頃はナイーブな青年役に持ち味を発揮していたが、以降、エキセントリックな黒幕的役柄を中心に、特撮作品や時代劇にも多く出演。

大阪府生まれ。声優・ナレーター。青二プロダクション所属。日本大学芸術学部演劇学科卒業。在学中に如月小春主宰の劇団「NOISE」に旗揚げより参加、座長の進言で声優の道へ。アニメでは『それいけ!アンパンマン』カレーパンマン役、『機動戦士ガンダムSEED』エリカ・シモンズ役、上田トシコ原作『フィチンさん』フィチン役、ちほてつや原作『風のように』語りほか。テレビでは『歴史発見城下町へ行く!』(BS朝日)、『名作を旅してみれば』(BSフジ)ほか多数。朗読ユニット「ほんなりラテオ」主宰、『WAKU』プロデュースで舞台の活動も続けている。

1981年生まれ。静岡県出身。グリーンメディア所属。特技:スポーツ(アイスホッケー:団体出場、テニス:全国大会出場) <芸歴> [ドラマ]CX「プライド」(2004年)でドラマデビュー。以降出演を重ね、昨年(2017年)はテレビ朝日「刑事7人」、CX「警視庁いきもの係」等、1年間でドラマ7本に出演。[舞台]WAKUプロデュース定期公演(赤坂RED / THEATER)では毎回のレギュラー出演。[映画]藤原知之監督「ボクはボク、クジラはクジラで、泳いでる」本年(2018年秋)公開予定。

1997年生まれ。前橋市出身・在住。地元前橋で開催されたワークショップをきっかけに、10歳から芝居を始める。中学進学と同時に地元のアマチュア劇団に入団し、舞台に出演。フリーランスで映画、CM、PVなどに出演し、地元群馬から活動を広げている。映画は「カラコエの花」(2016年)、「赤色彗星倶楽部」ヒロイン役(2016年)ほか。舞台は前橋文学館リーディングシアター「夜汽車の人」朔太郎の妹役(2017年)、「隆喜舞台プロデュース「寿歌」キョウコ役(2018年)ほか。

1946年東京都生まれ。映像作家、エッセイスト。多摩美術大学名誉教授。母は小説家萩原葉子、母方の祖父は萩原朔太郎。1967年、寺山修司主宰の演劇実験室「天井桟敷」の立ち上げに参加、俳優・演出家として活躍。1975年、月刊誌「ピククリハウス」をバルコ出版より創刊し、初代編集長を務める。著書に『演劇実験室・天井桟敷の人々』(2000年)、『毎日が冒険』(2002年)、『死んだら何を書いてもいいわ』(2008年)、『劇的な人生こそ真実』(2010年)ほか多数。2016年4月より前橋文学館館長。

ほりうち まさみ  
堀内正美



やなぎざわ みちよ  
柳沢三千代



さいとう ゆうすけ  
斉藤佑介



てしま みゆう  
手島実優



はぎわら さくみ  
萩原朔美



〔第2部〕リーディングシアター  
ただ港だけが故郷だ  
ふるさと